

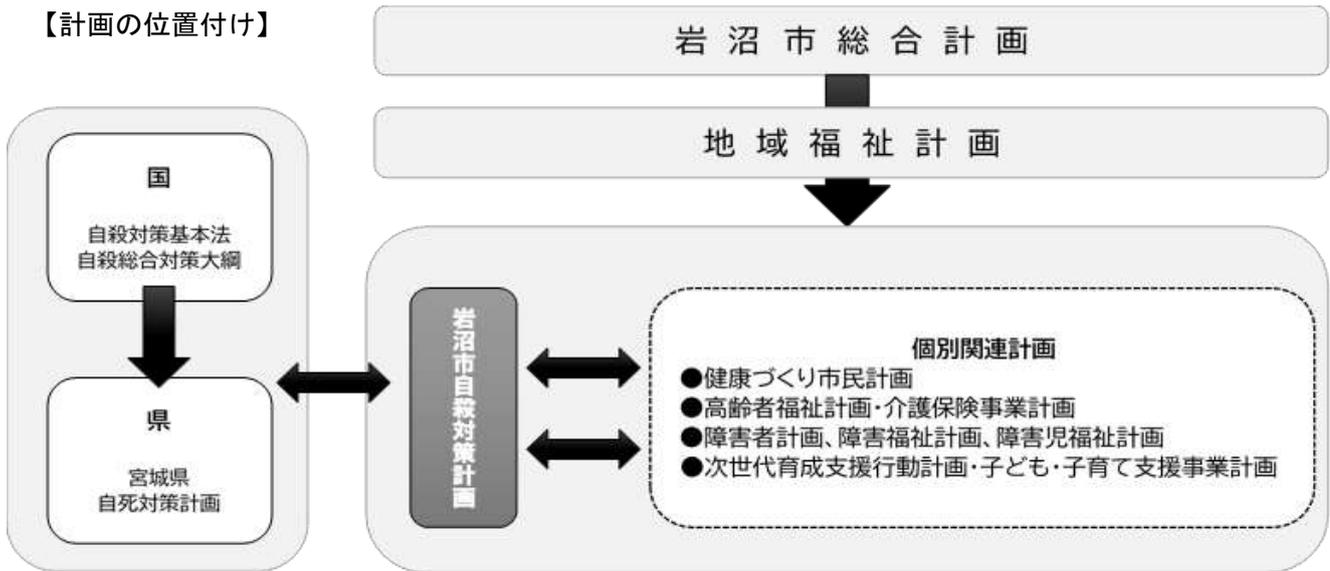
# 岩沼市自殺対策計画に係る計画期間の延長について

## 1. 岩沼市自殺対策計画について

本市では、自殺対策を総合的かつ効果的に推進していくため、令和2年3月に「岩沼市自殺対策計画（計画期間：令和2年度～令和6年度）」を策定しました。

基本理念を「誰もがより良く生きることのできるまち いわぬま」とし、市民一人ひとりが、その人らしく暮らしていける地域社会を目指しています。

### 【計画の位置付け】



## 2. 計画期間の延長について

令和6年度に計画の最終年度を迎える岩沼市自殺対策計画は、令和7年度に最終年度を迎える地域福祉計画と、一体的に推進していくこととなりました。

よって計画期間を1年間延長し、「令和2年度（2020年度）から令和7年度（2025年度）まで」と読み替えます。

また、計画期間の延長により、最終年度となる令和7年度に関しては、令和6年度に設定している目標をより達成できるよう取組を継続します。

## 3. 計画の期間

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
		岩沼市地域福祉計画 令和3年度～令和7年度						次期計画策定 (自殺対策計画は 地域福祉計画と 一体的に推進)	
	岩沼市自殺対策計画 令和2年度～令和6年度					1年 延長			

# 現計画の評価

## 1. 計画の目標に関する評価

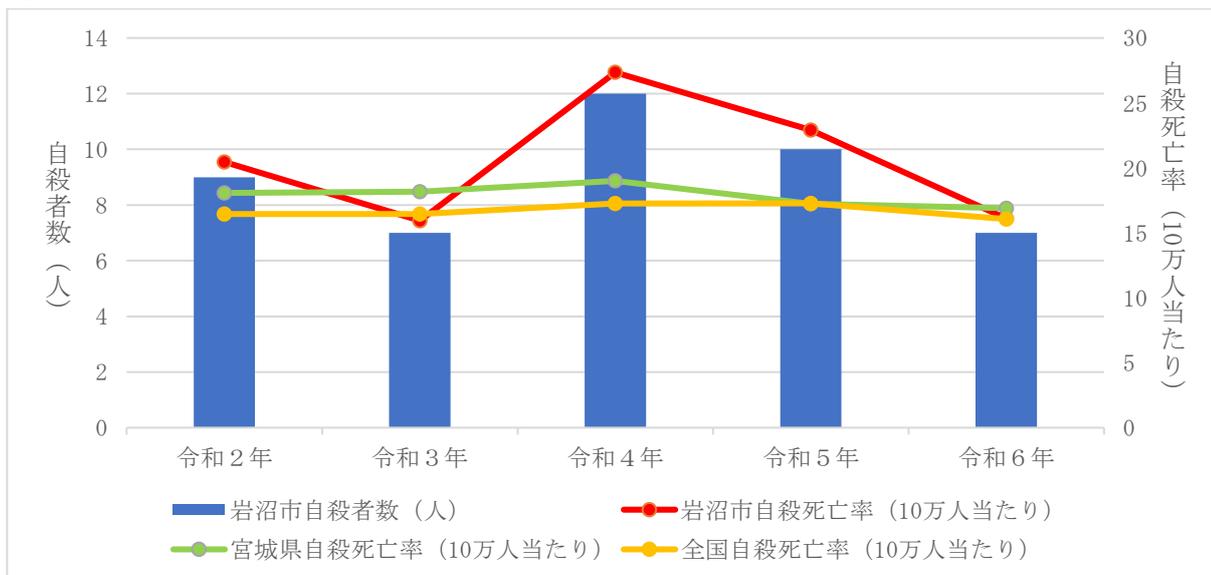
### 現計画の目標

「令和2年から令和6年（2020年～2024年）の5年間平均の自殺者数を、平成26年から平成30年（2014年～2018年）までの5年間平均の自殺者数から30%以上減少させる」

### 【本市における目標数値】

	現状	目標	結果
	平成26年～平成30年 (2014～2018)の5年間平均	令和2年～令和6年 (2020～2024)の5年間平均	
自殺者 (人)	9.2	6.4	9.0
自殺死亡率 (10万人当たり)	20.8	14.5	20.55

### 【岩沼市の自殺死亡率と自殺者数の推移】

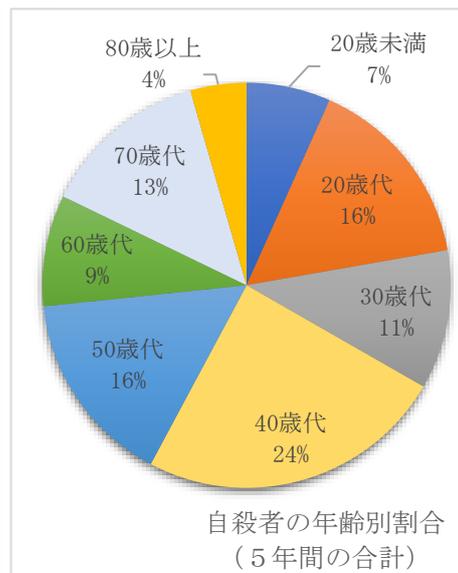


年	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
自殺者数 (人)	9	7	12	10	7
自殺死亡率 (10万人当たり)	20.46	15.94	27.35	22.91	16.11

※令和6年は暫定値。

【自殺者数の年齢別割合】 ※地域における自殺の基礎資料（厚労省）より作成

	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	合計
20歳未満	0	0	0	2	1	3
20歳代	2	0	3	2	0	7
30歳代	1	1	2	1	0	5
40歳代	2	1	2	4	2	11
50歳代	2	2	1	1	1	7
60歳代	1	2	1	0	0	4
70歳代	0	1	2	0	3	6
80歳以上	1	0	1	0	0	2
不詳	0	0	0	0	0	0
合計	9	7	12	10	7	45



【岩沼市の主な自殺者の特徴】 ※地域自殺実態プロファイル 2024 より

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率 (人口10万人当たり)	背景にある主な自殺の危機経路
1位:男性 40～59歳無職同居	5	11.1%	287.3	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
2位:女性 60歳以上無職同居	5	11.1%	18.4	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3位:女性 20～39歳無職同居	4	8.9%	56.4	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
4位:男性 40～59歳有職同居	4	8.9%	16.8	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
5位:男性 60歳以上無職同居	3	6.7%	134.9	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺

【進捗状況】

評価	<p>数値目標：未達成</p> <p>◆ 計画策定時の5年間平均より、自殺者数は0.2人、自殺死亡率は0.25減少していますが、目標達成とはなりませんでした。</p>
分析	<p>◆ 自殺者数は令和3年に一度減少しましたが、その後令和4年、令和5年に増加しました。全国や宮城県も、令和4年～5年に増加していることが分かります。</p> <p>◆ 年齢別割合を見ると、40歳代が最も多く、24%を占めています。</p> <p>◆ 働き世代である20歳代～50歳代の自殺者数は約7割を占めています。</p> <p>◆ 主な自殺者の特徴を見ると、自殺者数は1・2位が同じですが、自殺死亡率でみると、男性40～59歳が最も多くなっていることが分かります。また男性40～59歳は、有職の自殺者数も多く、4位となっています。</p> <p>◆ 令和5年には20歳未満の自殺者も見られており、全国でも令和4～5年において小中高生の自殺者数が過去最多となっています。</p>
今後の方向性	<p>◆ 自殺者が増加している「男性40歳～59歳」および「小中学生」を対象とした自殺対策を強化していく必要があります。</p>

## 2. 計画の基本目標ごとの評価

### 基本目標 1：みんなが「関わる」地域社会の形成

施策 1-1：地域における見守り・支え合いの推進

施策 1-2：地域住民同士の交流と楽しみを共有できる人間関係の構築

指標	現状	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	結果		目標
	平成30年度					(令和5年度)	(令和6年度)	
市民満足度調査 何らかの地域活動や サークル活動をして いる人の割合	21.84 %	23.88 %	20.03 %	14.32 %	17.70 %	18.32 %	減少	増加
ボランティア登録者数	79人	104人	96人	125人	181人	232人	増加	増加

施策に関連した取組について 【評価指標】 A：よくできた、B：できた、C：もう少し、D：できなかった

事業名	評価	令和6年度上半期までの実績
福祉団体への支援	B	・地域福祉団体への活動助成金の支給（2件）
サポートセンター等運営事業 （コミュニティ支援事業）	B	・コミュニティ支援員による個別訪問（57世帯）、町内会イベントの開催
認知症カフェ等の認知症当事者や 家族のつどいの場	B	・認知症カフェの開催：①市・認知症部会共催：月1回 ②地域包括支援センター（3か所）主催：毎月または隔月 ③市民ボランティア主催（3か所） ・つながりレター（情報紙）の発行
交流サロン推進事業	B	・助成金交付：1団体
市民活動サポートセンターの運営	B	・市民活動相談：16件（うち専門相談員による相談1件） ・「いわサポ通信（施設配架）」の発行：2回 ・市民活動団体向け講座の開催：1回（15名参加）

※サポートセンター等運営事業（コミュニティ支援事業）は、震災から13年が経過し事業を終了したため、令和5年度の評価となっています。

### 【進捗状況】

評価	<p>目標：一部達成</p> <p>◆ 「何らかの地域活動やサークル活動をしている人の割合」は3.52%減少し、目標達成となりませんでした。</p> <p>◆ 「ボランティア登録者数」は、153名増加し、目標達成となっています。</p>
分析	<p>◆ 「何らかの地域活動やサークル活動をしている人の割合」が、令和3年度に減少し、令和4年度以降に微増していますが、これは新型コロナウイルス感染症による影響が考えられます。また、これまでサークル活動をしていた人の高齢化が進み、減少していることも考えられます。</p> <p>◆ 一方で、ボランティア登録者数が増加していることから、サークル等へは属さずに、地域と関わりを持つ住民が増加していると考えられます。</p>
今後の方向性	<p>◆ 地域住民同士の関わり方に変化が見られていることについて、現状に合った、見守り・支え合いの方法について検討が必要です。</p>

## 基本目標 2：困ったときの声や支えの「届く」体制づくり

施策 2-1：相談・支援の充実

施策 2-2：ゲートキーパーの役割を担う多様な人材の養成・支援

指標	現状	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	結果		目標 (令和6年度)
	平成30年度					令和5年度		
自殺対策啓発普及回数	3回	4回	7回	5回	6回	5回	増加	増加
自殺対策ゲートキーパー養成講座開催数	1回	0回	1回	3回	2回	2回	増加	増加

### 施策に関連した取組について

【評価指標】 A：よくできた、B：できた、C：もう少し、D：できなかった

事業名	評価	令和6年度上半期までの実績
各種相談等による課題の早期発見・対応	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納税相談時のアドバイス：1件程度/月</li> <li>※うち社会福祉課、市社会福祉協議会、みやぎ生協（くらしと家計の相談室）等の案内：1件/月</li> <li>・市民の声：99件</li> <li>・行政相談：3件</li> <li>・消費生活相談：36件</li> <li>・青少年相談：81件</li> <li>・教育相談：支援対象者4名</li> <li>・水道料金分納誓約：49件</li> <li>・心配ごと相談件数：27件</li> <li>・人権相談：0件</li> <li>・心の健康相談：4回、7件</li> </ul>
自殺に関する正しい知識の普及啓発	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発活動：2回</li> <li>・相談窓口一覧の配布：111ヶ所</li> </ul>
地域ケア会議推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議：13回</li> <li>・自立支援型地域ケア会議：5回</li> </ul>
自殺対策ゲートキーパー養成講座	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員向け：16名</li> </ul>
民生委員児童委員の活動支援	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つなぎ先の周知</li> <li>・民生委員の精神的なフォロー</li> </ul>

### 【進捗状況】

評価	目標：達成
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 相談先が細分化され、専門性が高くなった一方で、どこに相談したらよいか分からないという声も多くありました。</li> <li>◆ 相談内容が複雑かつ多岐にわたり、一つの部署・機関で対応することが困難になっている傾向があります。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 令和3年度より相談窓口一覧を作成し、周知してきましたが、今後も継続した周知が必要です。</li> <li>◆ 処遇困難な相談に、庁内・関係機関の連携強化が必要です。</li> <li>◆ 自ら相談することが困難な市民を、地域で見守り、必要な相談先に繋げるため、ゲートキーパーの養成や、育成が必要です。</li> </ul>

### 基本目標 3 : 自分らしく「生きる」居場所づくり

施策 3-1 : 生きがいつくりの推進

施策 3-2 : 互いに認め合う意識の啓発

指標	現状	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	結果		目標 (令和6年度)
	平成30年度					令和5年度		
市民満足度 幸福度 (10点満点)	6.47点	6.63点	6.66点	6.66点	6.75点	6.77点	増加	増加

施策に関連した取組について 【評価指標】 A : よくできた、B : できた、C : もう少し、D : できなかった

事業名	評価	令和6年度上半期までの実績
公民館学級・講座の活用	B	・ジュニア・リーダー初級研修会：1回（中学生11名参加）
健康増進のための施設の活用	B	・各種運動教室開催：664回 ・健幸カード（ポイントカード）の活用
労働者・雇用支援	B	・出張ハローワークの開催：1回（市内企業9社、市民43名参加） ・広報いわぬまへの掲載：2回（①仙南職業訓練センターの親子教室、②シルバー人材センターの会員募集）
市民協働推進事業 (男女共同参画推進)	B	・図書館コラボ展示の実施：1回 ・広報いわぬまへの掲載：1回（男女共同参画週間に関する記事）
青少年室相談事業	B	・いじめ、不登校、ひきこもり等の青少年に関する相談・指導（随時）
母子保健事業	B	・月1回の乳幼児健診・相談にて、子育てに関する不安や悩み等の軽減の実施。 ・保健師の継続的支援の実施。

#### 【進捗状況】

評価	<p>目標：達成</p> <p>◆ 「幸福度」は、0.30点増加し、目標達成となりました。</p>
分析	<p>◆ コロナ禍で開催できない時期もありましたが、各種教室や事業を通して、生きがいつくりの推進や、互いに認め合う意識の啓発をすることができました。</p>
今後の方向性	<p>◆ 今後も各種相談や事業を推進していきます。</p>

## 基本目標 4 : 子どもを「守る」教育・支援の充実

施策 4-1 : 生きる力を育む支援

施策 4-2 : 子どもを支える体制の整備

指標	現状	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	結果		目標 (令和6年度)
	平成30年度					令和5年度		
夢・あこがれ事業の開催数	3回	4回	7回	5回	6回	5回	増加	増加
市民満足度調査 家庭教育の充実(6点)	3.998点	3.994点	4.005点	4.132点	3.921点	4.043点	増加	増加
市民満足度調査 学校教育の充実(6点)	4.030点	4.017点	4.095点	4.238点	3.986点	4.082点		

施策に関連した取組について 【評価指標】 A : よくできた、B : できた、C : もう少し、D : できなかった

事業名	評価	令和6年度上半期までの実績
学力向上推進事業	B	・学び塾の登録者数：小学生 113 名、中学生 90 名
生涯学習推進事業	B	・依頼に応じて町内会行事等でボランティア派遣を実施。
障害児療育事業	B	・個別面談の実施：1回 ・仙心連親の会活動への参加：5回
地域子育て支援センター事業	B	・子育て相談：58件 ・親子講座の実施
小学校・中学校支援事業	B	・スクールカウンセラー（7名）、スクールソーシャルワーカー（1名）の相談対応実施。
子どもの心のケアハウス運営事業	B	・心のケアハウスの来所支援：287回 ・学校訪問（アウトリーチ）の実施。

### 【進捗状況】

評価	<p>目標：達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「夢・あこがれ事業の開催数」は、2回増加し、目標達成となっています。</li> <li>◆ 「家庭教育の充実」は 0.045 点、「学校教育の充実」は 0.052 点増加し、どちらも目標達成となっています。</li> </ul>
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各関係機関の支援や連携により、子どもを支える体制が構築されていることで、学校教育や家庭教育の充実がなされていると考えます。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 岩沼市の自殺の傾向について、令和5年には20歳未満の自殺者が見られています。今後も上記取組を通じて、子どもの生きる力を育むとともに、子どもがSOSを出し、それを受け止められるよう関係機関が連携し、必要な支援体制を構築していく必要があります。</li> </ul>

### 3. まとめ

現計画の評価を受け、岩沼市の現状を以下のようにまとめました。

#### ① 自殺者の傾向（男性 40 歳～59 歳および小中学生の自殺者数の増加）

ア) 男性 40 歳～59 歳は、失業や配置転換を背景に自殺している割合が高くなっており、働き世代に対する支援を検討する必要があると考えます。

イ) 近年 20 歳未満の自殺者数も見られており、全国的にも小中学生の自殺者数が増えていることから、小中学校と連携した自殺対策や支援が必要と考えます。

#### ② 住民同士の関わりの変化

地域活動やサークル活動をしている人の割合は減少しましたが、一方でボランティア登録者数は大幅に増加しており、住民同士の関わり方に変化が見られています。

#### ③ 相談先の細分化・相談内容の複雑化

相談先が細分化され、専門性が高くなる一方で、どこに相談すればよいか分からないという声も多くありました。

また相談内容が複雑化し、多岐にわたるため、一つの部署・機関で対応することが困難になっている傾向があります。

#### 4. 令和7年度の取組

これまでの評価を受け、令和7年度は下記取組を実施することとしました。

	対象者	
	40歳～59歳男性	小中学生
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 商工会や困窮担当部署（市社協など）と連携し、自殺のリスクがある方への対応を強化します。</li> <li>◆ 商工会や企業等でゲートキーパー養成講座を実施し、自殺に関する正しい知識の普及啓発とともに、働き世代の見守りを強化します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 小中学校と連携し、自殺予防週間や自殺対策強化月間において、自殺に関する正しい知識と、相談先の周知を行います。</li> <li>◆ 自殺者数が増加する長期休業明けや、受験期や環境に変化が見られる1～3月に、心の健康チェックができるような仕組み作りを行います。</li> </ul>
	<p><b>ボランティアや民生委員を対象とした普及啓発の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 住民と関わる機会が多くある、民生委員やボランティアに対して、ゲートキーパー養成講座を実施します。</li> </ul> <p><b>相談窓口の周知・相談対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 相談窓口一覧の作成、周知を継続します。</li> <li>◆ 庁内・関係機関が連携し、支援を行っていきます。</li> </ul>	